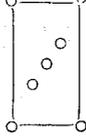


# オリオン星宿に就て

會 員 吉 由 裕

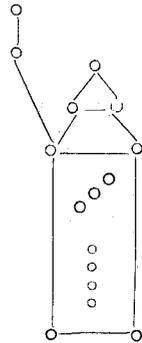
オリオンは本邦に於ては樺星と名づけられてゐる星のことで、燦爛として南方の天空に輝く最も壯觀雄大なる宿星である。之を樺と見たのは、稍長方形を成す四隅の四大星と其中央に位する三個の斜連星とを合したる。て一升樺の形に想像した七つの星を視



のに外ならぬ。然るに西洋にては樺形の内外に在る他の數星をも加へて巨大なる獵夫と想像してある。即ち樺の左上角の星（ベテルギューズ）を獵夫の右の肩とし、（樺の左の上角なるに獵夫の右の肩となるのは獵夫が我地球に向けて居ると見るからである。）樺の右下角の星（ライゲル）を左の膝とし、樺の直上部に品字形をなせる小さき三星を頭とし、右肩の上方稍や斜に位する二星を右手にて高く振り擧げたる棒と見做し、樺の中央なる三連星を帶とし其帶の下方に在る小さき數星を劍を釣り下げてあると眺めるのである。

右の帶と劍との中間には彼の有名なるオリオン星雲の存在することにて、三角形双眼鏡（フィルド）にて模糊と見ゆ、又は普通の小双眼鏡（ガラス）でも見ゆることもありといふ。若し六十五倍乃至七十倍の強度の望遠鏡を使用せば、獵夫の帶を成す三星中最上部の星が二重星であり、下部の星は三重星であるのが明かに分ることである。尙又三吋經の望遠鏡にて視るときは、獵夫の左膝なるライゲルは壯麗なる藍色光の二重星なることを分明に見得るといふ。

扱て右のオリオン宿星を日暮時分から見ることの出来るのは毎年十一月からで現今（三月）は一番見るのに都合のよい時である何となれば餘り夜の更けぬ間に於て壯嚴なる一大美觀を呈して天空を行くからである。今吾人をして南方に向つて立たしめよ、然るときは勿論左は東で右は西である。而して十一月の二十日頃の午後八時頃には該宿星が東天低く出現



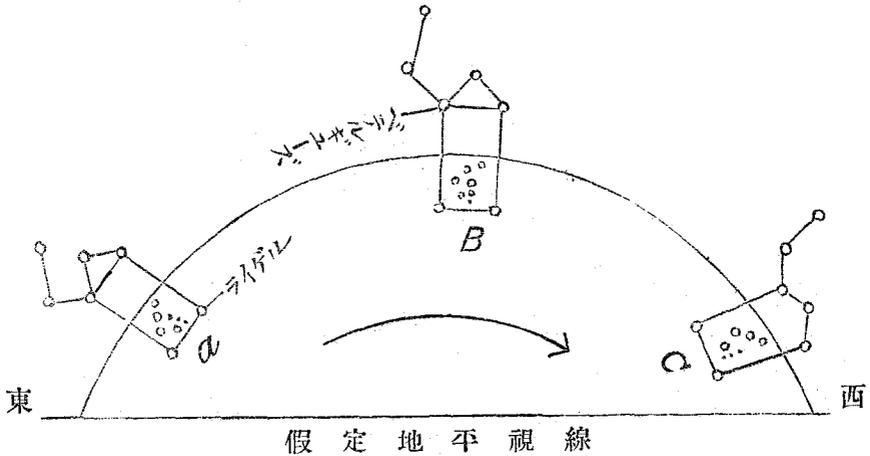
する、而して九時頃は假令地表には少々の霧が有りても昭々として輝くべく、九時半から十時迄位の間は最良の觀望時である。其頃吾人は左に掲ぐる略圖のA點に該星を見ると假定せば、枳内の三星は直立して上方に登り行くが如くに見え、翌午前一時半頃にはB點に上昇し五時頃にC點に達して八時には入没する筈である。けれども其時は既に太陽が出てゐるから實地には入るのを視難い。

吾人の多數は列星中の最大壯觀である所の此のオリオンですらも 全夜を徹して觀望を繼續する程の熱心なる注意家で無いことは知れて居る。夫れであるから又觀望に都合のよい面白き別の方法もあるのである。先づ左記の事實を記憶し置くを便宜とする、即ちオリオンは今夜八時に見たのと同一の位置に明晩來るのが四分間早いといふことである。而して一週間なり一ヶ月間なり連續して同星の堂々として天を横ぎりて進行するのを暫く宛見るのが面白いのである。上記の毎日四分宛早いのは圖中ABCの三點に限らず何れの處にても一定し置きたる位置ならば皆同様たるは勿論である。

一月中の午後八時頃にはA點よりも少しB點に近き處に在り二月中の同時にはB點の邊に四月にはC點附近に縣り煌々と耀くからして、殆んど半年間は夜の前半中にオリオンに親しむ事が出来るのである。獵夫の左膝ライゲルの光輝の威力は我が地球の統率者たる太陽の光輝に比して凡そ八千倍 (The Sun  $\times 8000$ ) 優等であり、又其の存在する位置は莫大なる遠距離にして、今夜同星より放射せられたる光の我地球に達するのは四百五十年の後であらねばならぬとこのことである。又獵夫の右肩ベテルギューズは一等星中の所にはあつても左程強き光輝も無く且つ距離も近い方ではあるけれ共、凡そ百光年の位置にある赤色光の恒星にして我が太陽の大きさに比較して二萬二千倍 (The Sun  $\times 22000$ ) の大塊であるといふ。嗚呼宇宙大の不可窮なる眞に佛語の所謂無邊際之三字に附するの外はない。(次頁の圖參照)

(附記) 本稿の大部分は大正元年出版のケルヴィン、マツクリー、デー氏著初學の星書 (A. Begliners' Star-Book. By Kelvin Mc-Kready) から借用しました。

の三位置  
オライオン



拜啓

先生々々南天を眺めて居ましたら地平線上約三、四  
 度位の正南に當つて爛々たる星！一等星！これは  
 〳〵カノプスでした最大の星カノプスでした嬉しか  
 つたです!!先日京都で先生が御覽なすつたことを聞  
 き星座早見を見ましたら掲載してあるので注意を怠  
 らずに居ました今夜は夜學の務めを終へ望遠鏡を手  
 にしプロシオンとシリウスの距離の約一倍半程南  
 に當つて探して居ましたら光輝燦爛たる一等星を見  
 付けましたこれぞ先日來ねらつて居ましたカノプス  
 でした時に午後十時五分!!!實に嬉しかつたです!!!

大正十年一月二七日

岡山 水野 千里

山本 先生